

宮崎兄弟資料館だより

2017/03/31

第28回孫中山・宋慶齡紀念地連席會議に出席しました —孫文生誕の地・中山市を訪問—

平成28年11月21日～25日、永尾教育長を代表とする荒尾市訪問団は「第28回孫中山・宋慶齡紀念地連席會議」（以下、連席會議）に参加するため、孫文の生誕の地である中山市を訪問しました。



平成28年（2016年）は孫文生誕から150周年の記念の年であり、世界各地の孫文関連施設でこれを祝う各種イベントが開催されました。荒尾市でも11月1日～12月25日までの期間に、孫文生誕150周年記念企画展「孫文と荒尾」を開催し、国内の孫文関連施設である「長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム」との連携にも取り組みました。

▲中山市・孫中山故居紀念館前にて記念撮影（11月22日撮影）

連席會議には、中国大陸各地・香港・台湾・アメリカ・日本・シンガポール・マレーシア等の国及び地域から58施設・機関、108名が出席。孫文の曾孫である孫国雄氏らも参加し、孫文生誕150周年を祝すとともに、いかに各地が連携し、文化資源を共有していくかが議論されました。

本會議にて、第29回目の連席會議は孫国雄氏が主催することも決まり、氏の居住するアメリカ・ロサンゼルスで開催されることとなりました。孫文の子孫が主催するのは初めてのことであり、そうした意味から、今回の會議に続く記念の會議になると思われます。

また、荒尾市からは孫文生誕150周年を記念して、開催地である中山市の孫中山故居紀念館に、孫文が1913年に来荒した際の記念に撮影された写真をパネルにし贈呈しました。これに対し、孫中山故居紀念館から荒尾市には孫文筆の「博愛」を模した巻物が贈られました。



▲記念パネル贈呈
（左：永尾教育長、右：林孫中山故居紀念館長）

シンガポール孫中山南洋紀念館・晩晴園を訪問 —平成31年「共同報告書」発刊をめざして—

平成29年2月6日～8日、生涯学習課長を代表とする荒尾市訪問団は、提携施設であるシンガポール孫中山南洋紀念館・晩晴園（以下、晩晴園）を訪問しました。晩晴園とは、平成26年9月に学術研究を中心として相互に協力していく旨を約した「基本協定書」調印以来、約二年半の交流となり、今回で三度目の訪問となりました。

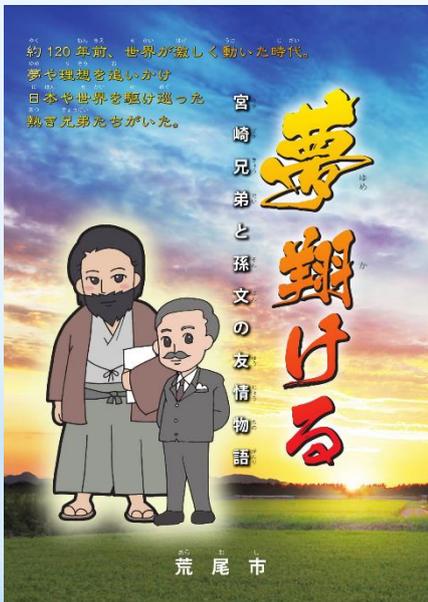
この「基本協定書」には、交流事業の成果として「共同報告書」を作成することも約しており、一度目の訪問以来、両館で協議を進めてきました。そして今回の訪問で、今後、資料収集・執筆作業・翻訳作業を進め、「基本協定書」協定期間の最終カ年となる平成31年7月に発刊することで合意しました。

また、今回の訪問では、シンガポール国立図書館や国立档案馆（ナショナル・アーカイブ）も訪問し、シンガポールにおける宮崎滔天に関連する史料の収集も行い、発刊をめざして、今後さらに史料を収集をし、調査・研究を進めます。



▲協議のようす

宮崎兄弟資料館子ども用リーフレット 『夢翔ける』を作成しました



▲子ども用リーフレット『夢翔ける』の表紙

荒尾市教育委員会では、荒尾市民、特に次代を担う子どもたちに郷土の偉人として宮崎兄弟を知ってもらうための環境づくりに取り組んでいます。その取組の一つとして、平成27年度には、子ども用の紹介パネルの製作、さらに郷土学習テキスト『荒尾の宝もん』の製作を行いました。

そして今回、「荒尾市ふるさと応援寄附金」の活用事業を用いて、子ども用リーフレット『夢翔ける』を作成しました。子どもたちにも親しみやすいマンガで宮崎滔天と孫文の友情の歴史について紹介していますが、宮崎兄弟、宮崎兄弟の生家施設の全体図、資料館保存の貴重史料や国内の孫文関連施設についても説明しています。これを、総合的な学習の時間で来館する地元の小中学生をはじめ、資料館に来館する子どもを対象として配布し、宮崎兄弟についてより関心を持ってもらえるよう、現在活用しています。また、宮崎兄弟資料館HPでも見れますので、是非御覧ください。

☆荒尾市宮崎兄弟顕彰基金への寄附のお願い☆

荒尾市では「荒尾市宮崎兄弟顕彰基金」を設置し、宮崎兄弟の生家施設の維持管理や、宮崎兄弟の顕彰事業に活用しています。世界に誇ることができる荒尾の偉人の歴史を次代に継承していくため、寄附に御協力をお願いいたします。



宮崎兄弟研究事業

—成果報告—

荒尾市教育委員会では、平成26年度～平成28年度の3カ年にわたって、宮崎兄弟に関する研究の一層の促進を目的とする「宮崎兄弟研究事業」に取り組んできました。1993

(平成5)年の宮崎兄弟の生家施設開館以来、これまでに宮崎兄弟に関して進められた研究成果を収集するとともに、宮崎兄弟の歴史的評価の変遷を追い、また、宮崎兄弟の子どもたちにまで研究対象を広げ、「宮崎兄弟」の思想がいかに継承されていたのかを研究しました。これらの研究結果を、19世紀末から20世紀という時代の中で世界史的な枠組みの中に位置づけることに取り組み、「宮崎兄弟研究事業成果報告」を作成しています。平成29年度には「宮崎兄弟研究事業報告書」として発刊し、宮崎兄弟の顕彰に活かしていきます。また、順次、資料館内の展示内容にも反映させていく予定です。

生家だより No. 6

・11/3 JR九州歴史探訪ウォーキング大会

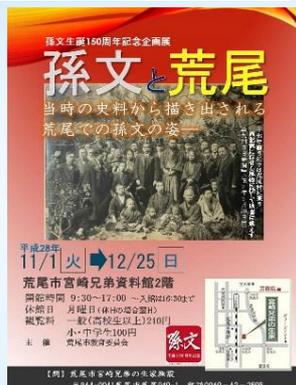
毎年JR九州が主催している催しで、今年の世界遺産の「三井三池炭鉱」を中心として、生誕100周年を迎えた海達公子の詩碑や宮崎兄弟の生家がコースとなりました。今年も天候に恵まれ、生家には216名の方が訪れました。



・11/1～12/25

孫文生誕150周年記念企画展「孫文と荒尾」

孫文生誕150周年を記念して、改めて孫文と荒尾にはどのようなつながりがあるのかを紹介しました。孫文が荒尾に二度来訪した際、孫文が語ったことや、孫文にまつわるエピソードも取り上げながら、1913年当時の新聞記事なども展示しました。今回の企画展では、国内の孫文関連施設である



「長崎近代交流史と孫文・梅屋庄吉ミュージアム」とも企画展の内容に関して連携し、1913年に荒尾を訪問したあと、孫文は熊本を経て長崎に向かうのですが、長崎ではどのような歓迎を受けたのか、当時の様子やエピソードが紹介されました。



・12/4 第52回 滔天忌俳句大会

52回目を迎えた今年も、熊本県各地から324句の投句がありました。天賞には山田節子氏(三里町)の「孫文に滔天に足す夜の炭火」が選ばれました。



・1/26 第63回文化財防火デー・防火訓練

今年も文化財防火デーに合わせて防火訓練を行いました。今回は初期消火から、通報訓練、避難訓練、放水銃を使った消火訓練という一連の訓練を行いました。また、近隣からの火事の延焼を防ぐために生家の茅葺屋根に水をかける訓練も行なうなど、文化財を火災から守るという意識を、職員一同再認識する訓練となりました。



・3/25、3/26 第7回 春の華展

今年も色鮮やかな花々が宮崎兄弟の生家を彩りました。当日は少し風が冷たかったのですが、時々晴れ間がのぞくと、生家の縁側のお花にも陽光がさし、うらかな日となりました。初心者の方たちを対象とした生け花体験も盛況で、二日間で約100名の方に観覧いただきました。



資料紹介 ⑤

短刀（長蔵、熊野座神社奉納）

前回、宮崎兄弟の父・長蔵が武芸に優れていたことを紹介しましたが、この短刀も、彼が生家のすぐ近くにある熊野座神社に奉納したものです。奉納された短刀は三振で、「明治六年一月 宮崎正賢」と記されています。

奉納に至った詳しいいきさつ等は不明ですが、当時長蔵は56歳で1870（明治3）年の藩政改革により「荒尾組里正」として、民政の最前線の役職に就いていました。



施設紹介②

孫文記念館（兵庫県・神戸市）

孫文記念館は1984年に開館した、日本で孫文を顕彰する記念館です。明石海峡・明石海峡大橋を間近に望む舞子公園内にあり、建物のうち八角三層の「移情閣」は国の重要文化財になっています。



もとは神戸華僑・呉錦堂の別荘で、1913年に孫文が訪問して呉錦堂や神戸の人々からの歓待を受けたことから、孫文と神戸の繋がりを現在に伝える場所となっています。

孫文記念館では孫文の事績や、孫文と日本、特に神戸との関わりについて、孫文の神戸への亡命上陸や、神戸の人々による孫文への支持、孫文が死去の直前に神戸で行った「大アジア主義講演」などを主として紹介しています。また孫文が日本人の支援者に遺した直筆書や、日本財界で活躍した呉錦堂の事績も展示しています。毎年11月には「孫文月間」を開催し、孫文にまつわる特別展や講演会を行っています。

<今後の予定（4月1日～）>

- ・第23回牡丹茶会（4月9日）
- ・第4回牡丹文芸・美術展（5月16日～6月11日）
- ・第40回夏休み少年少女俳句教室
（7月下旬～8月初旬）
- ・第4回夏休み子ども教室（8月上旬頃）
- ・第12回 音と光の祭典（9月下旬）
- ・宮崎滔天・孫文邂逅120周年記念企画展
「中国革命運動における滔天」（9月下旬予定）

※詳細については荒尾市教育委員会（☎0968-63-1681）までお問合せください。

※皆様の御来館をスタッフ一同、心よりお待ちしております！

～編集後記～

「資料館だより」を発行しはじめてから、早くも3年が過ぎました。この間、宮崎兄弟に関する事業は、恒例の行事に加え、研究事業、孫文関連施設との交流事業と拡大の一途にあり、これらの事業に取り組みば取り組むほど、宮崎兄弟の歴史的価値を感じる事が出来ました。しかしその一方で、一般的に見ればいまだ宮崎兄弟に関する認知度は低く、どのようにすればもっと彼らを顕彰できるのか、どうすればその歴史の中に今日でも学ぶべきことがあることを知ってもらえるのか、試行錯誤、葛藤の日々でした。もっと親しみを持ってもらえるよう、生家施設を利用した行事や庭の花々について発信したり、子どもたちにも分かりやすく伝えられるように、子ども教室の開催や資料館内に子ども用展示パネルを設置したり、他方で学術的な質を落とすことのないよう企画展を開催したり...この「資料館だより」も、なかなか目に見えない事業の取組内容を可視化することを目的として発行しはじめたものです。すぐに成果が出るものではないと分かりつつ、時間が確実に経過していることも感じられ、妙な焦燥感のようなものに迫られるときも...ですが、来館者に説明をさせていただいたあと、「すごい人がいたんですね」、「もっと知ってもらわなきゃ、もったいない」といったお言葉をいただけると、少しずつ、でも確実に伝わっていていることが実感でき、また頑張ろう、という気になります。今年度でいよいよ研究事業も一区切りとなり、今後はこの成果をどのように活かせるのか、顕彰につなげることが出来るのか、再び試行錯誤、鋭意努力してまいります。

～次号予告～

次回の「宮崎兄弟資料館・館報」7号は、2017（平成29）年9月30日に発行予定です。

内容は、

- (1) 生家だより No.7
- (2) 資料紹介⑥
- (3) 施設紹介③
- (4) 書籍紹介①

を予定しております。その他、掲載内容について何かご意見・ご要望があれば、下記メールアドレスまでお寄せください。

E-mail : mai.33413@city.arao.lg.jp

（担当：野田【荒尾市教育委員会】）